＜専攻科地域看護学専攻＞

科目名　ページ

公衆衛生看護学概論 …… 1
個人・家族・集団・組織の支援 …… 2
地域組織活動論 …… 3
保健計画論 …… 4
健康教育論 …… 5
公衆衛生保健指導論・母子保健 …… 6
公衆衛生保健指導論・成人保健 …… 7
公衆衛生保健指導論・高齢者保健 …… 8
公衆衛生保健指導論・精神保健 …… 9
公衆衛生保健指導論・障害者(児)保健 …… 10
公衆衛生保健指導論・産業保健 …… 11
公衆衛生保健指導論・学校保健 …… 12
公衆衛生看護実践論 …… 13
公衆衛生看護管理論 …… 14
疫学 …… 15
保健統計学Ⅱ …… 16
保健医療福祉行政論Ⅰ …… 17
保健医療福祉行政論Ⅱ …… 18
個人・家族・集団・組織の支援実習 …… 19
公衆衛生看護活動展開論実習 …… 20
公衆衛生看護管理論実習 …… 21
外国語 …… 22
情報科学Ⅲ …… 23
修了研究 …… 24
衛生学及び公衆衛生学Ⅱ …… 25
学校保健Ⅱ …… 26
養護概説Ⅱ …… 27
学校教育制度 …… 28
教育課程の意義と編成 …… 29
教育方法論 …… 30
生徒・進路指導論 …… 31
養護実習Ⅱ …… 32

授業科目	公衆衛生看護学概論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	大西　昭子・森本　美佐子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 公衆衛生看護活動の歴史及び公衆衛生看護の基盤となる考え方を学び、地域において人々が健康的な生活を送ることができることを支える公衆衛生看護活動の役割や課題について理解する。 ＜到達目標＞ １．公衆衛生看護活動の歴史および公衆衛生看護学の基盤となる考え方を習得できる ２．公衆衛生看護の機能や役割を説明することができる ３．人々の生活・健康と地域との関わりを総合的に理解できる ４．公衆衛生看護の対象について説明できる ５．公衆衛生看護活動と法的根拠を結びつけることができる ６．我が国の公衆衛生看護の経験を活かした国際協力のあり方を説明できる		

授業の計画		
	1	公衆衛生看護とは　地域看護と公衆衛生看護、公衆衛生看護の理念、予防活動とは（大西）
	2	公衆衛生看護活動の歴史　日本における公衆衛生看護の歴史、保健師活動の歴史（大西）
	3	公衆衛生看護の対象と場　個人・家族・地域、家族の捉え方、行政機関（市町村・保健所）（大西）
	4	地域の人々と健康（対象）　生活環境の変化と健康問題、日本における健康課題の検討（大西）
	5	地域の人々と健康（対象）　生活環境の変化と健康問題、日本における健康課題の検討（大西）
	6	公衆衛生看護活動の展開　生活とは、生活モデルに基づく支援活動の検討（大西）
	7	公衆衛生看護活動の展開　フィールドワークでの目標設定、計画立案（大西）
	8	土佐町におけるフィールドワークⅠ　中山間地域の生活を知る、住民組織活動の実際を学ぶ（大西・森本）
	9	土佐町におけるフィールドワークⅡ　個人へのかかわりから生活を学ぶ、（大西・森本）
	10	土佐町におけるフィールドワークⅢ　地区踏査による地域診断、健康課題の明確化（大西・森本）
	11	土佐町におけるフィールドワークⅣ　地域住民との交流、プレゼンテーション（大西・森本）
	12	フィールドワークにおける地域診断結果の報告（大西・森本）
	13	フィールドワークにおける地域診断結果の報告（大西・森本）
	14	地域看護活動の展開　地域診断に基づく保健師活動の展開についてグループディスカッション（大西）
	15	地域看護活動の展開　地域診断に基づく保健師活動の展開についてグループディスカッション（大西）
	16	試　験

授業の方法	講義・視聴覚教材
テキスト	「標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論」　奥山則子　著者代表　（医学書院） 「国民衛生の動向 2016/2017　Vol.63 No.9」　財団法人　厚生統計協会
参考文献	「保健師業務要覧　第３版」　日本看護協会監修　（日本看護協会出版会）
評価方法	試験 40%　レポート・成果物 40%　プレゼンテーション 10%　授業への参加状況 10%で評価する
授業時間外に必要な学習	予習：日常的に新聞やニュースを見て情報を収集し、社会の動向をつかんでおくこと（3 時間） 復習：授業後は内容を教科書で振り返り、理解を深めること。(1 時間)
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大西：開講中の空き時間は随時。計画をもって相談されたい方は、予約を入れていただけると円滑に対応することができます。森本：授業終了後に受け付けます。
履修上の注意事項	・「公衆衛生看護学概論」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。 ・授業中は積極的に発言して学びを深めること

授業科目	個人・家族・集団・組織の支援	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	大西　昭子		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 公衆衛生看護における家庭訪問を通して、生活の場面で個人やその家族の価値観や生活歴を尊重し、その人らしい人生を送ることができるよう健康の側面から支援する方法を学び、公衆衛生看護の視点に立った支援展開ができるようになる。 ＜到達目標＞ １．保健指導の法的根拠と基本姿勢が説明できる ２．対象者の生活歴や発達課題、家族や社会との関係を理解し、家族全体を援助の対象として位置づけることができる ３．家庭訪問は、家族を単位として生活の場で健康問題を解決するために行う援助活動であることがわかる ４．家庭訪問による援助の展開を具体的事例のなかで理解し、個別性を尊重した支援方法を検討することができる ５．家庭訪問を通じて地域ケアの課題を見出し、問題提起することを説明できる		

授業の計画		
授業の計画	1	公衆衛生看護の支援技術の特性と保健指導 保健指導の基本、保健師の行う保健指導の特徴と法的根拠
	2	保健指導の展開　健康相談のプロセス、健康相談の目的・意義・進め方
	3	家庭訪問における保健指導Ⅰ ①家庭訪問の目的及び対象（優先順位）、特徴と機能、対象である家族全体の捉え方
	4	家庭訪問における保健指導Ⅱ（事例展開とデモンストレーション） ②家庭訪問の具体的手順：目標設定と支援内容の検討
	5	家庭訪問における保健指導Ⅱ（事例展開とデモンストレーション） ②家庭訪問の具体的手順：目標設定と支援内容の検討
	6	家庭訪問における保健指導Ⅲ（事例展開とデモンストレーション） ③家庭訪問の具体的な手順：訪問場面での援助内容、プライバシーへの配慮、守秘義務、記録
	7	家庭訪問における保健指導Ⅲ（事例展開とデモンストレーション） ③家庭訪問の具体的な手順：訪問場面での援助内容、プライバシーへの配慮、守秘義務、記録
	8	家庭訪問における保健指導Ⅳ（ロールプレイ事例の検討）
	9	家庭訪問による援助の実際Ⅰ（事例による演習を含む）　発達への不安を抱く母子への援助
	10	家庭訪問による援助の実際Ⅰ（事例による演習を含む デモンストレーションおよびロールプレイ、アセスメントの仕方と家庭訪問の評価、記録の仕方
	11	家庭訪問による援助の実際Ⅱ（事例による演習を含む）　精神障害者およびその家族の支援
	12	家庭訪問による援助の実際Ⅱ（事例による演習を含む） デモンストレーションおよびロールプレイ、アセスメントの仕方と家庭訪問の評価、記録の仕方
	13	ロールプレイの振り返り
	14	ロールプレイの振り返り
	15	地域ケアシステムの構築とネットワーク化 家庭訪問を通じて地域ケアの課題と問題提起、保健師活動のまとめ
	16	試　験

授業の方法	講義・視聴覚教材
テキスト	「標準保健師講座２　公衆衛生看護技術」　中村裕美子　編集代表　（医学書院） 「国民衛生の動向 2016/2017　Vol.63 No.9」　財団法人　厚生統計協会
参考文献	随時紹介
評価方法	試験 60%　ロールプレイの取り組み状況 20%　授業への参加状況 20%で評価する
授業時間外に必要な学習	予習：家庭訪問場面のロールプレイの実施に向けてグループで話し合い準備をすること（3 時間） 復習：実施後はグループでディスカッションし、事例へのかかわりに対する改善点と自身のもつ課題を明確にすること。(1 時間)
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	開講中の空き時間は随時。計画をもって相談されたい方は、予約を入れていただけると円滑に対応することができます。
履修上の注意事項	・「個人・家族・集団・組織の支援」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習)」の履修条件である。 ・グループ内ではメンバー間で役割分担を行い、積極的に発言、参加すること。

授業科目	地域組織活動論	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	野村　美紀		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 地域における個別への支援と集団への支援を基盤にした保健活動において、地域の核となる組織の形成や育成が、コミュニティ全体の健康課題に対処できる力を育てるコミュニティ・エンパワメントにつながることを理解する。その上で、地域で活用できる社会資源として発展するようセルフヘルプ・グループや自主活動の活性化への支援を行う方法論を習得し、地域組織に関わる力がもてるようになる。 ＜到達目標＞ 1．地域の健康課題への対処に地域組織が果たす役割を説明できる。 2．地域組織の変遷を理解し、社会背景と関連づけて地域組織活動の特徴を説明できる。 3．地域組織活動の基本的な展開を理解し、保健師の役割を説明できる。 4．地域組織活動の中で活用できる理論や方法論を3つ以上述べることができる。 5．セルフヘルプグループの歴史や実際の活動を理解し、保健師の支援の方法を説明できる。		

授業の計画		
	1	地域組織活動の歴史
	2	地域組織活動に関わる概念
	3	地域組織活動の実際
	4	地域組織活動で活用できる理論
	5	地域組織活動とは　【グループワーク（1）】
	6	地域組織活動展開の原則、組織活動の発展過程　【グループワーク（1）：発表】
	7	保健師によるグループ支援の特徴と意義
	8	地域組織活動とその支援　グループディスカッション
	9	試験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義・グループワーク
テキスト	「最新保健学講座2　公衆衛生看護支援技術」　村嶋幸代編集　（メヂカルフレンド社）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験60%　　グループワーク40%
授業時間外に必要な学習	[予習・復習合計4時間] 地域での人々の生活を具体的にイメージできるように情報を集め、整理しておくこと。 また、地域組織やセルフ・ヘルプ・グループの種類や成り立ちについても事前学習しておくこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜9：00～11：00　野村研究室
履修上の注意事項	・地域組織活動論」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。

授業科目	保健計画論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	野村　美紀		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　地域での保健活動の展開にあたっては、地域のもつ特性や健康課題を明確化し、保健活動の基礎となる保健計画を策定することで、組織全体や他職種が連携し共通の目的に向かって相互の共通認識のもと支援が行われることを理解する。地域全体をアセスメントし、それをもとに計画策定を実施し、PDCAサイクルを展開することができる思考をもつことができるようになる。 ＜到達目標＞ １．公衆衛生看護活動の展開に必要な地域診断のプロセスを学び、地域診断で明確になった課題を計画に反映させていく過程を説明できる。 ２．計画策定において、目標および評価指標の明確化が公衆衛生看護活動に欠かせないことを理解できる。 ３．保健計画の要素、策定意義を理解し、地方公共団体の他の計画との整合性を保つ必要性を説明できる。 ４．事業計画の立案と実践について理解し、事業計画の策定・実施・評価までの思考の過程を整理することができる。		

授業の計画		
授業の計画	1	公衆衛生看護活動の計画・実践・評価
	2	地域特性の把握方法（１） 【グループワーク（１）】地区視診・地区踏査の実施
	3	地区視診・地区踏査による地域特性の把握 【グループワーク（１）】発表
	4	地域診断の目的と活用できる理論 コミュニティアズパートナーモデルによる地域診断
	5	地域特性の把握方法（２） 【グループワーク（２）】地域のコアとなる情報およびサブシステムの理解
	6	地域のコアとなる情報およびサブシステムの理解 【グループワーク（２）：発表】
	7	地域特性の把握方法（３） 統計データ、既存資料の活用方法
	8	各種統計や調査結果の活用 【グループワーク（３）】根拠、説得力のある地域の姿の示し方
	9	根拠、説得力のある地域の姿の示し方 【グループワーク（３）：発表】
	10	保健計画の策定プロセス、計画の位置づけ、計画の立案と実践
	11	保健計画における目的と目標　住民参加、協働による保健事業の企画立案と評価
	12	保健計画と予算
	13	保健計画、保健事業計画の立案 【グループワーク（４）】地域診断に基づく保健計画および事業計画の立案
	14	地域診断に基づく保健計画および事業計画 【グループワーク（４）：発表】
	15	地方公共団体における保健医療福祉対策
	16	試　験

授業の方法	講義・視聴覚教材
テキスト	「最新保健学講座５　公衆衛生看護管理論」　平野かよ子編集　（メヂカルフレンド社）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験 60%　　グループワーク 40%
授業時間外に必要な学習	［予習復習合計４時間］ 自分の生活している地域を観察する。（地域を構成する要素、地域に暮らす人々など） 既存の計画書（日本一の健康長寿県構想など）について調べる。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜　9：00～11：00　野村研究室
履修上の注意事項	・「保健計画論」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。

授業科目	健康教育論	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	大西　昭子		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 地域における健康教育とは、個人または集団を対象として単なる知識や技術の伝達にとどまらず、対象の認識に働きかけ、個人および家族、組織集団の行動の変容を通じて地域全体の健康の維持増進を目指すものであることを理解し、地域の健康課題に応じた効果的な健康教育を計画、実施、評価できるようになる。 ＜到達目標＞ １．公衆衛生看護における健康教育の位置づけとパラダイムの変化を理解できる ２．健康教育の定義について理解し、ヘルスプロモーションの視点で説明できる ３．健康教育の目的・目標・対象者および場の選定、教育媒体を適切に考えることができる ４．健康教育の展開過程（企画・準備・実施・評価・事後対応）における基本技術を活用できる ５．健康教育における組織化（グループ）への支援について理解できる		
授業の計画 1	公衆衛生看護における健康教育の位置づけ ①公衆衛生看護における健康教育のパラダイムの変化　②健康教育の定義		
授業の計画 2	健康教育の目的と方法 ①健康教育の実施方法と特徴　②教育媒体　③健康教育における技術　④保健関連行動・理論		
授業の計画 3	健康教育の目的と方法 ①健康教育の実施方法と特徴　②教育媒体　③健康教育における技術　④保健関連行動・理論		
授業の計画 4	健康教育の企画と評価Ⅰ：グループワーク ①地域における住民組織活動の実際から健康ニーズを把握する（母子・成人・高齢者の分野）		
授業の計画 5	健康教育の企画と評価Ⅰ：グループワーク ①地域における住民組織活動の実際から健康ニーズを把握する（母子・成人・高齢者の分野）		
授業の計画 6	健康教育の企画と評価Ⅱ：グループワーク ①地域の健康課題の抽出とアセスメント　②地域特性の理解　③目的・目標の設定		
授業の計画 7	健康教育の企画と評価Ⅱ：グループワーク ①地域の健康課題の抽出とアセスメント　②地域特性の理解　③目的・目標の設定		
授業の計画 8	健康教育の企画と評価Ⅲ：グループワーク ①企画書作成　②指導案作成　③方法の検討と教材作成		
授業の計画 9	健康教育の企画と評価Ⅲ：グループワーク ①企画書作成　②指導案作成　③方法の検討と教材作成		
授業の計画 10	健康教育の実際Ⅰ：グループディスカッション及びプレゼンテーション ①企画書の発表及びディスカッション　②デモンストレーション　③評価・修正		
授業の計画 11	健康教育の実際Ⅰ：グループディスカッション及びプレゼンテーション ①企画書の発表及びディスカッション　②デモンストレーション　③評価・修正		
授業の計画 12	健康教育の実際Ⅱ：プレゼンテーション ①健康教育の実践（母子・成人・高齢者の分野）　②実施後の評価		
授業の計画 13	健康教育の実際Ⅱ：プレゼンテーション ①健康教育の実践（母子・成人・高齢者の分野）　②実施後の評価		
授業の計画 14	健康教育の実際Ⅲ：グループディスカッション ①健康教育の評価方法　②事後フォロー　③自立支援・組織化（グループ）への支援		
授業の計画 15	健康教育の実際Ⅲ：グループディスカッション ①健康教育の評価方法　②事後フォロー　③自立支援・組織化（グループ）への支援		
授業の計画 16	試　験		
授業の方法	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション		
テキスト	「最新保健師講座２　公衆衛生看護技術」　中村裕美子　編集代表　（医学書院）		
参考文献	随時紹介		
評価方法	試験 50%　企画内容と自己評価 20%　健康教育の実践 20%　授業への参加状況 10%で評価する		
授業時間外に必要な学習	予習：対象者の行動変容への支援方法について、理論等を復習してから授業に臨むこと。 復習：健康教育の指導案や教材づくりについては、時間内に完成しない場合にはグループ間で検討し指定の期日までに作成すること。　（予習・復習合計１時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	開講中の空き時間は随時。計画をもって相談されたい方は、予約を入れていただけると円滑に対応することができます。		
履修上の注意事項	・健康教育の実践に当たっては、他グループへの評価が適切に行えているかどうかも評価の視点となるため、積極的に意見交換をし、主体的に授業へ参加すること。 ・「健康教育論」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。		

授業科目	公衆衛生保健指導論・母子保健	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	大西　昭子、小野　文子		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 少子高齢化社会が進行する我が国における近年の母子保健上の健康課題や社会的問題について概観することによって、母子のおかれている現状と課題を保健、医療、福祉、生活、社会環境等の多方面の視点から分析し、次世代を担う子どもたちの健やかな成長発達を地域全体で支援する方法を習得することができる。 ＜到達目標＞ １．地域の母子保健ニーズに基づき思春期から乳幼児期を通じて一貫した母子保健サービスが体系的に提供されていることを説明できる ２．健康上のリスクをもつ母子への継続的な支援サービスについて学習し、支援方法を検討できる ３．地域の実情や健康課題に応じた子育て支援のあり方を地域活動とつなげて考えることができる ４．社会情勢を踏まえて、家庭や地域における子育て機能の強化や虐待予防の必要性が説明できる		

授業の計画		
授業の計画	1	母子保健活動の理念と母子保健施策　（小野） 健やか親子 21（第２次）、子ども・子育て支援新制度、DV 防止法、その他の関係法規
	2	母性各期の健康課題と保健指導　（小野） 思春期および成熟期、更年期の健康問題と保健指導
	3	母子の健康と保健指導　（小野） 妊娠経過と妊産婦への保健指導、両親教室の企画運営、ハイリスク妊産婦の支援、勤労女性の健康支援
	4	母子の健康と保健指導　（小野） 産褥期の保健指導、母乳育児支援、家族計画、外国人母子の健康問題と支援
	5	母子保健の動向　（大西） 地域における母子保健施策と保健師活動および各種、統計からみた地域・集団の母子健康問題
	6	乳幼児期の成長発達と保健指導　（大西） 乳幼児の成長発達および健康課題と保健指導、予防接種、乳幼児健康相談
	7	乳幼児期の成長発達と保健指導　（大西） 乳幼児健康診査（4 か月児・１歳 6 か月児・3 歳児）でのチェックポイント
	8	発達障害児の早期発見と支援　（大西） 地域におけるサポートシステムの構築、社会資源、連携のあり方の実際
	9	試　験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義・視聴覚教材
テキスト	「最新保健学講座３　公衆衛生看護活動論①」金川克子　編集（メヂカルフレンド社）
参考文献	「国民衛生の動向 2016/2017　Vol.63 No.9」　財団法人　厚生統計協会 随時紹介
評価方法	試験 90%　　授業への参加状況 10%で評価する
授業時間外に必要な学習	予習：妊娠の経過及び乳幼児の成長発達過程について理解する（3 時間） 復習：毎回の授業後は子育て支援施策と法的根拠をつなげて理解する（1 時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大西・小野ともに開講中の空き時間は随時。計画をもって相談されたい方は、予約を入れていただけると円滑に対応することができます。
履修上の注意事項	・「公衆衛生保健指導論・母子保健」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。 ・母性看護学、小児看護学の学習内容を基盤に地域での母子保健活動を学習します。そのため、授業の前には、それぞれの基礎的な知識を十分に振り返っておいてください。また、グループディスカッション等では積極的に発言し、主体的に参加してください

授業科目	公衆衛生保健指導論・成人保健	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	野村　美紀		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 公衆衛生看護活動における成人期の保健指導の理念や成人保健の動向を学び、成人期は健康という資源を見直す視点が必要であり、保健活動は病気の早期発見、早期治療の二次予防中心から、コミュニティ全体のすべての人々の健康状態の改善・向上を目的とした一次予防にシフトしていることを理解する。そして、コミュニティを基盤として個々人及び地域全体の健康の保持増進を図るために対象の理解に重点を置いた成人保健指導の展開を考えることができるようになる。 ＜到達目標＞ 1．公衆衛生看護活動における予防の視点について説明できる。 2．ヘルスプロモーションの理念や、ポピュレーション・ストラテジー（集団戦略）について説明できる。 3．個人へのアプローチ、集団へのアプローチの展開参加型アプローチで計画・実施の方法を習得することができる。		

授業の計画		
	1	成人保健の理念と目的・成人期の特徴および成人保健活動の歴史的変遷
	2	成人保健の現状と課題【グループワーク①】
	3	成人保健の動向【グループワーク①：発表】
	4	成人保健における予防の考え方・健康概念に関する考え方（ﾌﾟﾗｲﾏﾘﾍﾙｽｹｱ・ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ）
	5	成人期の保健活動：特定健診および特定保健指導
	6	成人期の保健活動：がん対策基本法・がん対策
	7	成人期の保健活動：事例検討
	8	成人保健の課題と対策
	9	試　験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義・視聴覚教材
テキスト	「最新保健学講座３　公衆衛生看護活動論①」金川克子　編集（メヂカルフレンド社）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験 70%　グループワーク 30%
授業時間外に必要な学習	[予習・復習合計 4 時間] 「国民衛生の動向」を参考に成人保健の動向や施策について学習する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜 9：00～11：00　野村研究室
履修上の注意事項	・「公衆衛生保健指導論・成人保健」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。

授業科目	公衆衛生保健指導論・高齢者保健	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	野村　美紀		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ わが国における高齢化の進展及び疾病構造の変化を踏まえ、すべての高齢者を対象として、健康寿命を延伸するために高齢者保健の視点に立った地域における支援活動について考えることができる。 ＜到達目標＞ 1．地域社会の動向から高齢者とその家族の健康課題を説明することができる 2．高齢者の生活の質の向上を目的としたケアマネジメントの過程を理解し、支援方法を考えることができる 3．高齢者とその家族の地域生活を支える社会資源について理解し、活用方法を考えることができる 4．高齢者が希望する地域生活を支援するための社会資源の開発の意義と保健師の役割を説明できる 5．地域における高齢者の権利擁護の重要性について理解できる		

授業の計画		
	1	高齢者保健の理念目的・高齢者保健活動の歴史的変遷
	2	高齢者保健の現状と課題【グループワーク①】
	3	高齢者保健の動向【グループワーク①：発表】
	4	ライフステージからみる高齢者の特性
	5	地域ケアシステムの構築と保健師活動
	6	介護保険制度と地域包括支援センターの役割
	7	在宅要支援および要介護高齢者と家族への支援：事例検討
	8	高齢者保健の課題と対策
	9	試　験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義・視聴覚教材
テキスト	「最新保健学講座3　公衆衛生看護活動論①」金川克子　編集（メヂカルフレンド社） 「国民衛生の動向」　財団法人　厚生統計協会
参考文献	「最新公衆衛生看護学-第2版-総論」　宮﨑美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編集（日本看護協会出版会）
評価方法	試験70%　グループワーク30%
授業時間外に必要な学習	［予習復習合計4時間］ 授業までに在宅看護学で学習した介護保険制度や老年看護学での高齢期の特徴について復習しておくこと。また、授業後は支援施策と社会情勢、法的根拠を統合して理解できるように教科書で授業内容を振り返っておくこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜9：00～11：00　野村研究室
履修上の注意事項	・「公衆衛生保健指導論・高齢者保健」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。 ・老年看護、在宅看護での学習内容を基盤に地域における高齢者への支援体制を学ぶため、授業内容の理解のために必要な資料を持参すること。

授業科目		公衆衛生保健導論・精神保健	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等		専攻科地域看護学専攻　前期（集中）		
担当教員		大西　昭子		
授業の目的・到達目標		＜授業の目的＞ 地域における人々の精神的な健康課題について考えることができ、その人らしい生活を送ることができるように支援体制を関係機関との連携を基に確立する必要性を学び、精神保健（予防）の視点に立った支援方法を習得することができる。 ＜到達目標＞ １．地域における精神保健活動の動向・制度を理解できる ２．施設ケアから地域ケアへの転換について説明ができる ３．精神障害者の地域生活を支えるために必要な保健師活動を説明することができる ４．社会病理を背景とする精神的な健康課題を理解できる ５．地域で生活する人々の権利擁護について考えることができる		
授業の計画	1	地域精神保健福祉の動向・関連法令 ①精神保健福祉の動向　②精神保健の対象者　③精神保健における保健師活動		
	2	社会病理を背景とする精神的問題 ①自殺に関する動向　②日本における自殺対策　③支援者のセルフケア		
	3	精神障害者の地域生活と保健指導：事例による展開 ①対象理解のためのアセスメント　②ケアコーディネート（多職種協働） ③社会資源の活用と開発		
	4	精神障害者の地域生活と保健指導：事例による展開 ①対象理解のためのアセスメント　②ケアコーディネート（多職種協働） ③社会資源の活用と開発		
	5	施設ケアから地域ケアへⅠ：学外学習（障害者総合支援法に基づく施設の見学及び体験） ①精神障害者の地域生活支援の理解　②自立支援施設の活動内容と役割 ③相談支援の実際		
	6	施設ケアから地域ケアへⅠ：学外学習（障害者総合支援法に基づく施設の見学及び体験） ①精神障害者の地域生活支援の理解　②自立支援施設の活動内容と役割 ③相談支援の実際		
	7	施設ケアから地域ケアへⅡ：グループワークと発表、ディスカッション 施設見学を通して、精神障害者の地域生活支援のあり方について考察する		
	8	施設ケアから地域ケアへⅡ：グループワークと発表、ディスカッション 施設見学を通して、精神障害者の地域生活支援のあり方について考察する		
	9	試　験		
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
授業の方法		講義・視聴覚教材・グループワーク		
テキスト		「最新保健学講座４　公衆衛生看護活動論②」金川克子　編集（メヂカルフレンド社）		
参考文献		「国民衛生の動向 2016/2017　Vol.63 No.9」　財団法人　厚生統計協会		
評価方法		試験 70%　プレゼンテーション 20%　授業への参加状況 10%で評価する		
授業時間外に必要な学習		予習：精神看護学で学習した精神疾患や精神障害者のおかれてきた歴史について復習して授業に備えること。(3 時間) 復習：毎授業ごとに教科書を活用して内容を振り返り、次回の授業における自己目標を考えておくこと。(1 時間)		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ		開講中の空き時間は随時。計画をもって相談されたい方は、予約を入れていただけると円滑に対応することができます。		
履修上の注意事項		・「公衆衛生保健指導論・精神保健」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習)」の履修条件である。 ・事例を活用したグループディスカッション、施設見学では今まで学習してきた知識を最大限に活用し、地域における支援体制の在り方を検討すること。また、施設見学では事後のディスカッションに向けて自己の目標を明確に持ち、主体的に学びを深めること。		

授業科目	公衆衛生保健指導論・障害者(児)保健	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	野村　美紀		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 障害者（児）保健活動は、ノーマライゼージョンの理念に基づき、地域で生活できるように支援体制を確立する方向の必要性を学び、健康課題と保健指導の方法を習得することができる。 ＜到達目標＞ 1．障害者（児）保健の理念・歴史的変遷について概観し、理解することができる 2．障害者（児）保健施策と保健師活動の方法を習得することができる 3．障害者（児）保健における他職種との連携について理解することができる		

授業の計画		
	1	障害者（児）保健の動向
	2	障害者（児）保健の理念
	3	障害者（児）保健と多職種連携
	4	障害者（児）保健とネットワークづくり
	5	障害者（児）保健施策と保健師活動
	6	障害者（児）保健の社会資源
	7	障害者（児）保健と権利擁護
	8	障害者（児）保健の課題と対策
	9	試　験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義
テキスト	「最新保健学講座４　公衆衛生看護活動論②」金川克子　編集（メヂカルフレンド社）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験 60%　レポート 40%
授業時間外に必要な学習	［予習復習合計 4 時間］ 障害者保健・福祉施策の動向と根拠法令等について予習復習しておくこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜 9：00～11：00　野村研究室
履修上の注意事項	・「公衆衛生保健指導論・障害者（児）保健」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。

授業科目	公衆衛生保健指導論・産業保健	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　後期		
担当教員	槇本　宏子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 産業保健活動の目的は、労働条件と労働環境に関連する健康障害の予防、労働者の健康の保持増進、福祉の向上に寄与することにあり、その活動対象は、個々の労働者だけでなく、労働者が所属する組織・地域を含むことを学ぶ。産業保健活動とは、事業者・労働者の双方に対して看護の理念に基づいて組織的に行う、個人・集団・組織への健康支援活動であることを理解することができる。 ＜到達目標＞ １．産業保健活動の目的を理解し、説明することができる ２．産業保健の定義について説明できる ３．労働安全衛生法について理解できる ４．労働者の安全と健康について考えることができる ５．産業保健における健康課題について説明することができる ６．産業保健活動と地域における公衆衛生看護活動の連携が重要であることを認識することができる		

授業の計画		
授業の計画	1	産業保健・看護の理念と目的　①産業保健・看護の定義　②産業看護職の役割機能
	2	産業保健・看護の歴史と現状 ①我が国の産業保健の歴史　②産業構造と職業構造の変遷 ③企業における健康マネジメント
	3	産業保健・看護の制度とシステム ①労働安全衛生に関する法体系　②産業保健組織と人材　③産業保健・看護と社会資源
	4	産業保健における健康課題 ①職業性疾病の種類と予防対策　②作業関連疾患の種類と予防対策
	5	産業保健における健康課題 ③職場のメンタルヘルスケア、ストレス対策
	6	産業保健・看護の展開 ①産業看護職の職務　②産業保健計画と評価　③個別的・集団的・組織的展開方法
	7	産業保健・看護の展開　④地域保健との連携
	8	産業保健・看護の展開　⑤産業保健活動をすすめる上での困難さ
	9	試　験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義・グループワーク
テキスト	「最新保健学講座３　公衆衛生看護活動論①」金川克子　編集（メヂカルフレンド社）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験 80%　　レポート 10%　　授業への参加状況 10%で評価する
授業時間外に必要な学習	予習：授業には、公衆衛生看護活動の内容について理解して臨むこと。(3 時間) 復習：毎授業ごとに授業内容を教科書で振り返り、理解を深めること。(1 時間)
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後に質問を受け付けます。
履修上の注意事項	・グループワーク等には積極的に参加すること。 ・「公衆衛生保健指導論・産業保健」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習)」の履修条件である。

授業科目	公衆衛生保健指導論・学校保健	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期（集中）		
担当教員	酒井　美紀（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 学校保健行政が文部科学省の設置、教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、学校給食法等を基盤とし、地域保健法などの関係法規によって支えられていることがわかり、その包括的活動の展開を理解することによって、公衆衛生看護の立場から学校保健のあり方について考えることができるようになる。 ＜到達目標＞ １．学校保健、学校安全、学校給食それぞれの独自の機能を説明できる ２．ヘルスプロモーションの視点から公衆衛生看護における学校保健の役割について説明できる ３．児童、生徒、職員を取り巻く社会の動向、制度、地域ケアシステムを理解することができる ４．養護教諭の役割と地域の関係機関との協働について理解し、連携の意義と方法を説明できる		

授業の計画		
	1	学校保健の理念と目的　　学校現場における養護教諭の役割、ヘルスプロモーションの実際
	2	学校保健制度とシステム　　学校の組織体系および法的基盤
	3	学校における保健教育および保健管理の実際 健康診断や保健指導のねらいと技術、保健指導の特徴
	4	学校感染症対策および学校環境衛生　　感染症の予防と対策、予防接種、環境衛生検査
	5	学校保健の対象と健康課題 疫学的動向と児童生徒のエンパワメント支援、チームアプローチによる健康支援
	6	健康課題をもつこども・家族への支援 長期ひきこもりや不登校等と保健師による連携支援の実際
	7	健康課題をもつこども・家族への支援 発達障害に対する学校と地域によるアプローチ、地域ケアシステムの構築
	8	特別支援教育（学校）と地域との連携 医療ニーズの高い児童生徒への支援、要保護児童対策協議会
	9	試験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義・視聴覚教材
テキスト	「最新保健学講座３　公衆衛生看護活動論①」金川克子　編集（メヂカルフレンド社）
参考文献	「最新公衆衛生看護学-第２版-総論」　宮﨑美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編集（日本看護協会出版会） 「国民衛生の動向 2016/2017　Vol.63 No.9」　財団法人　厚生統計協会
評価方法	試験 70%、レポート 20%、授業への参加状況 10%で評価する
授業時間外に必要な学習	予習：学童期の子どもたちの成長発達や発達障害等の基本的な知識について復習しておく。(3 時間) 復習：毎授業の後は授業内容を教科書で振り返り、理解を深めておくこと。(1 時間)
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	質問等がある場合は、専攻科の教員を通じて連絡をとります
履修上の注意事項	・「公衆衛生保健指導論・学校保健」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習)」の履修条件である。

授業科目	公衆衛生看護実践論	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　後期		
担当教員	大西　昭子、野村　美紀		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保健師活動の特徴である個人支援から集団・地域への支援へと思考を発展させ、対象者への支援を考えることが出来るような基盤を形成する。そのために市町村勤務の新任期の保健師が経験しやすい事例を用いてグループでディスカッションを重ねることにより、個人から地域全体へつなげる思考過程のイメージ化を図り視野の広がりを体験することで理解を深める ＜到達目標＞ 1．地域で行われている健康課題に対する活動や法的根拠について説明できる 2．個々人および家族の発達段階や健康課題に応じた支援を考えることができる 3．予防的視点から将来的なリスクを推測し支援を考える必要性を説明できる 4．個人・集団・組織・地域の健康問題に対する保健師の役割について説明できる		

授業の計画		
	1	家族全体を対象とする視点と家族のアセスメントの方法
	2	家族全体を対象とする視点と家族のアセスメントの方法
	3	対象者とその家族を含めた支援の展開
	4	対象者とその家族を含めた支援の展開
	5	集団や地域を対象とする1次・2次・3次予防対策について
	6	集団や地域を対象とする1次・2次・3次予防対策について
	7	健康課題に基づく集団へのアプローチ方法の検討および企画立案
	8	集団・地域へのアプローチのまとめ　プレゼンテーションとディスカッション
	9	地域診断の実際（実習地域における健康課題の明確化と対応策の検討）Ⅰ 地域診断ポートフォリオの作成
	10	地域診断の実際（実習地域における健康課題の明確化と対応策の検討）Ⅰ 地域診断ポートフォリオの作成
	11	地域診断の実際（実習地域における健康課題の明確化と対応策の検討）Ⅱ 地域診断ポートフォリオの修正
	12	地域診断の実際（実習地域における健康課題の明確化と対応策の検討）Ⅱ 地域診断ポートフォリオの修正
	13	地域診断の実際（実習地域における健康課題の明確化と対応策の検討）Ⅲ 地域診断ポートフォリオのプレゼンテーションおよび意見交換
	14	地域診断の実際（実習地域における健康課題の明確化と対応策の検討）Ⅲ 地域診断ポートフォリオのプレゼンテーションおよび意見交換
	15	地域診断の実際（実習地域における健康課題の明確化と対応策の検討）Ⅲ 地域診断ポートフォリオのプレゼンテーションおよび意見交換
	16	

授業の方法	ケースメソッド・視聴覚教材・グループワーク
テキスト	標準保健師講座②　公衆衛生看護技術、中村裕美子　編集代表　（医学書院）
参考文献	標準保健師講座③　対象別公衆衛生看護活動（医学書院）、保健師業務要覧第3版（看護協会出版会）その他随時、提示する
評価方法	成果物50%、課題への取り組み状況20%、グループでの貢献度20%、授業への参加状況10%で評価する
授業時間外に必要な学習	1回目の授業開始までに各自がWebにアクセスし、履修に必要な事前学習を実施し、事前課題（練習問題を含む）をクリアしておくこと。さらに前半（10月）は毎授業ごとに出される課題を実施し、次回の授業開始までに担当教員が提示した基準に達するまでグループで取り組み成果物を提出すること。後半（12月）は、公衆衛生看護学実習で得た情報から地域診断を実施するため、意識して実習を行うこと。　（予習・復習合計1時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大西・野村ともに開講中の空き時間は随時。計画をもって相談されたい方は、予約を入れていただけると円滑に対応することができます。
履修上の注意事項	グループで主体的に学習を進めていく授業形態のため、積極的に参加して学び取ってください。

授業科目	公衆衛生看護管理論	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期（集中）		
担当教員	中島　信恵（非常勤）、神﨑　明子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 公衆衛生看護管理の目的・機能を理解し、他機関および住民と協働で住民の健康レベルの向上、地域ケアの質を保証する方法について学ぶ。また、行政組織における情報や組織運営、各種事業および関連予算等、さまざまな公衆衛生看護管理の在り方について学び、行政に所属する保健師の責任と義務について理解する。 ＜到達目標＞ １．公衆衛生看護管理の目的・機能を理解する ２．地方公共団体の組織とその運営について学ぶ ３．他機関および住民との協働や連携の必要性とその方法論を理解する ４．住民の健康レベルの向上、地域ケアの質を保証するための予算管理や施策化を理解する ５．住民の権利保障とリスクマネジメント、健康危機管理について学ぶ ６．情報を扱う保健師の責任と義務について学ぶ		

授業の計画		
	1	公衆衛生看護管理とは、公衆衛生看護管理の概念　（中島）
	2	健康危機管理、災害時における保健師の管理的能力とは　（中島）
	3	組織運営と管理　（神﨑）
	4	市町村の公衆衛生看護における人事管理と人材育成　（神﨑）
	5	市町村における予算管理と事業・業務管理の実際　（神﨑）
	6	市町村における情報管理、地区管理、事例管理の実際　（神﨑）
	7	都道府県の公衆衛生看護における人事管理と人材育成および予算管理　（中島）
	8	地域ケアの質と保証および地域ケアシステムづくり、難病対策　（中島）
	9	試験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義
テキスト	「最新保健学講座５　公衆衛生看護管理論」平野かよ子　編集（メヂカルフレンド社）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験 80%　　授業への参加状況 20%で評価する
授業時間外に必要な学習	予習：授業には、公衆衛生看護活動の内容について理解して臨むこと。(3 時間) 復習：毎授業ごとに授業内容を教科書で振り返り、理解を深めること。(1 時間)
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	質問等がある場合は、専攻科の教員を通じて連絡をとります
履修上の注意事項	・「公衆衛生看護管理論」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習)」の履修条件である。 ・集中講義のため、講義日程は掲示板を確認し、スケジュール管理に努めてください。

授業科目		疫学	授業の方法・単位	講義 ・ 2 単位
開講学科等		専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員		田口　徹也(非常勤)		
授業の目的 ・到達目標		＜授業の目的＞疫学は公衆衛生の基礎となり、得られた知見を現在(あるいは将来)の人々の健康に寄与するために行う学問であることを理解する。明確に規定された人間集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立てるために学ぶ。 ＜到達目標＞ 1．疫学は罹患者に共通の曝露を探し、疫学データの解読を理解する 2．疫学的研究方法を習得する 3．予防の 3 段階(1 次的予防、2 次的予防、3 次的予防)が理解でき、保健活動における具体例を理解する 4．スクリーニング検査を理解する 5．感染症の基礎概念について学ぶ 6．結核をはじめとする主要な感染症について疫学的特徴を学ぶ 7．アウトブレイク(エンデミック・パンデミック)について理解でき、発生時の調査の方法を学ぶ 8．おもな疾患の疫学を理解する		
授業の計画	1	疫学の概念 ・疫学の紹介		
	2	集団の健康状態の把握 ①有病率と罹患率		
	3	集団の健康状態の把握 ②死亡率とその比較 ③その他の指標		
	4	疫学的研究方法 ①研究方法		
	5	疫学的研究方法 ②疫学研究における信頼性と妥当性		
	6	疫学的研究方法 ③疫学における因果関係の立証		
	7	疫学的研究方法 ④調査票作成の基礎		
	8	疾病の予防のスクリーニング　①予防の 3 段階		
	9	疾病の予防のスクリーニング ②スクリーニングとは		
	10	感染症の疫学 ①感染症の基礎概念 ②主要な感染症と法律 ③アウトブレイク発生時の調査		
	11	感染症の疫学 ③アウトブレイク発生時の調査		
	12	おもな疾患の疫学 ①心疾患の疫学 ②脳血管疾患の疫学 ③がんの疫学		
	13	おもな疾患の疫学 ④糖尿病の疫学 ⑤精神疾患の疫学 ⑥女性関連疾患の疫学		
	14	おもな疾患の疫学 ⑦小児疾患の疫学 ⑧骨、関節疾患の疫学 ⑨環境の疫学		
	15	おもな疾患の疫学⑩歯科疾患の疫学 ⑪難病の疫学 ⑫生活習慣の疫学		
	16	試 験		
授業の方法		講義		
テキスト		シラバスに沿った教材の作成		
参考文献		随時紹介		
評価方法		試験 80%　レポート 10%　授業への参加状況 10%		
授業時間外に必要な学習		講義内容から、各人に興味ある事例を割当て各自に発表してらもうので、準備をするように。 予習・復習合計 4 時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ		授業時間後に質問を受け付ける		
履修上の注意事項		「疫学」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習 (個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習)」の履修条件である。		

授業科目	保健統計学Ⅱ	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　後期		
担当教員	大西　昭子		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 集団の健康に関わる情報を収集し、それを評価する統計学的手法を理解する。また、看護専門職者として必要な集団の健康や環境に係わる統計指標を読み取る能力を養う。 ＜到達目標＞ １．データの種類（質的・量的)、平均値と中央値、最頻値について説明できる。 ２．ヒストグラムとクロス集計表を作成し、データの意味を読み解くことができる ３．人口静態統計や人口動態統計、集団の健康状態の把握に必要な指標を読み取り、保健医療福祉問題との関連性を説明できる。 ４．相対危険・寄与危険・オッズ比の意味を理解し、計算をすることができる ５．スクリーニング検査における敏感度・特異度の意味を理解し、計算することができる		

授業の計画		
	1	ガイダンス、保健統計学に関する自己分析・自己課題の記入、自己とグループワークの計画立案
	2	グループワークによる課題学習　　統計とは、データの種類
	3	グループワークによる課題学習　　記述統計と推測統計
	4	グループワークによる課題学習　　度数分布表と円グラフ、帯グラフの作成
	5	グループワークによる課題学習　　ヒストグラムの作成とデータの解釈、四分位数、正規分布
	6	グループワークによる課題学習　　分散、偏差、変動係数ほか
	7	グループワークによる課題学習　　クロス集計表の作成、2 変数の記述統計、χ^2検定
	8	ガイダンス、自己課題の達成状況に関する振り返り、健康指標の計算方法
	9	グループワークによる課題学習　　人口静態統計、人口動態統計　統計調査の種類
	10	グループワークによる課題学習　　仮説検定（過誤、帰無仮説と対立仮説、有意水準）
	11	グループワークによる課題学習　　曝露と疾病発生（研究方法、相対危険、寄与危険、オッズ比）
	12	グループワークによる課題学習　　同上
	13	グループワークによる課題学習　　対象集団の選定（標本抽出)、交絡因子の制御法、因果関係
	14	グループワークによる課題学習　　疾病予防とスクリーニング、特異度・敏感度の計算
	15	まとめ　　演習問題にチャレンジしよう　　到達目標との照合　課題達成状況の確認
	16	試験

授業の方法	講義　　グループワーク
テキスト	「基本からわかる看護統計学入門」　大木秀一　著（　医歯薬出版株式会社）
参考文献	「医療・看護のためのやさしい統計学（解析編)」　山田覚　著　（東京図書株式会社）
評価方法	試験　40%、小テスト 30%、グループ評価 20%、授業態度 10%
授業時間外に必要な学習	予習：保健統計の基本的な内容について保健統計学Ⅰの科目を振り返っておくこと。(3 時間) 復習：毎授業ごとに授業内容を教科書で振り返り、理解を深めること。(1 時間)
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	開講中の空き時間は随時。計画をもって相談されたい方は、予約を入れていただけると円滑に対応することができます。
履修上の注意事項	①自分の学習動機と目標を明確にし、配布資料を活用して毎回学習の振り返りを行い提出する。 ②授業の 9 回目以降は毎回、前回の内容について小テストを実施し理解度の確認を行う。 ③インターネットによる情報収集の方法、関係者のプライバシーの保護、セキュリティについては、情報科学教育の履修を前提に行う。

授業科目	保健医療福祉行政論Ⅰ	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	鈴木　順一郎（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　保健医療福祉分野の行財政施策の基盤となっている基本的考え方を理解した上で、個々の行財政施策について概観することによって、行政職としての責任と施策化の必要性、法的根拠と仕組みを熟知して保健師活動に活かすことができる ＜到達目標＞ １．保健医療福祉行政を学ぶ根拠、公衆衛生の定義を理解することができる ２．社会保障制度の仕組みについて説明できる ３．保健医療福祉の新たな課題と発展的解決について考えることができる		

授業の計画		
	1	保健医療福祉のめざすもの（保健医療福祉行政の根拠と公衆衛生）①
	2	保健医療福祉のめざすもの（Health for All　とヘルスプロモーション）②
	3	わが国の公衆衛生行政の仕組みと変遷①
	4	わが国の公衆衛生行政の仕組みと変遷②
	5	わが国の公衆衛生行政の仕組みと変遷③
	6	保健医療福祉行政・財政の理念としくみ①
	7	保健医療福祉行政・財政の理念としくみ②
	8	地域保健に関する公的機関の役割
	9	保健医療福祉の計画と評価
	10	社会保障制度の現状
	11	年金保険、雇用保険等
	12	医療保険制度
	13	介護保険制度
	14	社会福祉制度
	15	生活保護制度、国際協力と国際保健
	16	試　験

授業の方法	講義
テキスト	「標準保健師講座　別巻１　保健医療福祉行政論」　藤内修二　著者代表（医学書院）
参考文献	星旦二、麻原きよみ「これからの保健医療福祉行政論第２版」（日本看護協会出版会）
評価方法	試験 80%　　レポート 10%　　授業への参加状況 10%で評価する
授業時間外に必要な学習	毎授業前にはシラバスに沿って法的根拠を予習して臨むこと。予習 3 時間、復習 1 時間。 また、保健医療福祉行政論Ⅱの授業にむけて、本科目での授業内容を整理しておくこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	随時。電子メールで質問を受け付ける。アドレスは初回授業でお知らせします。
履修上の注意事項	「保健医療福祉行政論Ⅰ」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。

授業科目		保健医療福祉行政論Ⅱ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等		専攻科地域看護学専攻　前期（集中）		
担当教員		廣末　ゆか（非常勤）、中越　美渚（非常勤）		
授業の目的・到達目標		＜授業の目的＞ 保健医療福祉行政論Ⅰで、人々の健康を維持させるための保健医療福祉行政を体系的に理解した上で、看護職者の役割に対する期待が大きいことから保健医療福祉分野における看護職者の役割を認識できるようになる。そして具体的な保健師活動内容や方法を習得することができる。 ＜到達目標＞ １．保健所法から、地域保健法に基づく地域保健体制の変遷を学び、保健所と市町村保健センターのそれぞれの役割を説明することができる ２．地域保健行政と保健師の活動方法を習得することができる ３．市町村保健センターの業務と保健所や関係機関との連携による活動を理解し、検討することができる ４．地域単位の保健師活動の方法を習得することができる		
授業の計画	1	地域保健行政と保健師活動　（中越） ①地域保健法と地方自治　②法的な位置づけと基本的役割 ③市町村保健師と県保健師の役割、中核市保健師の役割　④地域包括支援センターの役割		
	2	高齢者の事例から考える保健福祉活動の実際：事例提供　（中越）		
	3	高齢者の事例から考える保健福祉活動の分析　（中越） ①保健医療福祉の連携　②地域ｹｱｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝと支援機能　③組織育成と地域内関係機関の組織化等		
	4	高齢者における事例に関する分析結果から施策立案：演習　（中越）		
	5	母子保健分野における事例から考える保健福祉活動の実際：事例提供　（廣末）		
	6	母子保健分野における事例から保健福祉活動を分析する　（廣末） ①保健医療福祉の連携　②地域ｹｱｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝと支援機能　③組織育成と地域内関係機関の組織化等		
	7	子育てしづらさのある事例から現状と課題を分析し、地域づくりの視点で保健活動を考える　（廣末）		
	8	障害保健福祉分野における保健福祉活動の実際：事例提供　（廣末）		
	9	障害保健福祉分野における事例から保健福祉活動を分析する　（廣末） ①保健医療福祉の連携　②地域ｹｱｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝと支援機能　③組織育成と地域内関係機関の組織化等		
	10	事例からみえてきた現状と課題を分析し、地域づくりの視点で保健活動を考える　（廣末）		
	11	地域の実態を捉え、課題を分析する：グループ演習　（廣末）		
	12	分析結果を元に、地域づくりの視点で保健活動を考える：グループ演習　（廣末）		
	13	保健医療福祉の計画と評価　（中越） ①地方公共団体の保健医療福祉計画　②保健計画の策定プロセス　③保健計画の推進と評価		
	14	健康危機管理：医療救護計画、　災害時の保健活動ガイドライン等　（中越）		
	15	健康危機管理：事例から考える災害時の保健活動：グループ演習　（中越）		
	16	試　験		
授業の方法		講義を交えた演習・グループワーク		
テキスト		「標準保健師講座　別巻１　保健医療福祉行政論」　藤内修二　著者代表　（医学書院）		
参考文献		随時紹介		
評価方法		試験 80%、グループワークでの貢献度 10%、授業への参加状況 10%で評価する		
授業時間外に必要な学習		保健医療福祉行政論Ⅰで学習した各種法制度について授業前に予習しておくこと 毎授業ごとに配布した資料に目を通し、理解を深めること　予習・復習合計１時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ		質問等がある場合は、専攻科の教員を通じて連絡をとります		
履修上の注意事項		・「保健医療福祉行政論Ⅱ」の単位修得は、「公衆衛生看護学実習（個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習）」の履修条件である。 ・授業ではグループワークの時間を設けるため、積極的に参加し発言すること		

授業科目	個人・家族・集団・組織の支援実習	授業の方法・単位	実習・２単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　後期		
担当教員	梶本　市子、大西　昭子、野村　美紀・森本　美佐子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 地域保健活動の対象である個人とその家族、そしてそれを取り巻く地域全体の総合的な健康課題を明らかにし、住み慣れた地域でその人らしく生きることを支援するため個人や地域、地域の持つ特性を生かした援助方法の実際を学ぶ。そして、ヘルスプロモーションに基づき地域で展開されている総合的な支援と学習で得た知識を統合し、地域の健康問題に対して、関係機関や住民と連携を図り協働して保健師活動を展開する能力を養うことができる。 ＜到達目標＞ １．地域の健康課題を分析し、健康問題の解決に向けてヘルスプロモーションの視点に立った保健師の活動について説明することができる ２．福祉保健所と市町村保健センターの機能や役割、専門性について学び、保健師活動のあり方や意義について説明することができる ３．地域全体の健康度や地域特性をアセスメントし、対象理解の方法を学び、実践することができる ４．カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる		
授業の計画 1	学内実習：実習市町村の人口動態統計などのデータを基に地域特性や健康課題の分析		
2	学内実習：健康教育のデモストレーション/健康課題と対象者に応じた指導案の作成・企画立案		
3	学内実習：家庭訪問のロールプレイ/対象者のアセスメント・計画立案・実施・評価		
4	市町村実習：実習機関におけるオリエンテーション・概況説明/保健福祉事業に参加		
5	市町村実習：保健福祉事業（母子・成人・高齢者・障害等）に参加し一連の流れを学ぶ		
6	市町村実習：家庭訪問（保健師に同行）/支援内容の見学・アセスメント・評価の実施		
7	市町村実習：育児相談・健康相談などの相談業務の実際を体験		
8	市町村実習：家庭訪問（学生単独）/アセスメント・計画・実施・評価・今後の支援の検討		
9	市町村実習：事例を通して連携について学ぶ/情報共有の実施・ケース会議への参加		
10	市町村実習：中間カンファレンス/自己分析と今後の目標設定、学びの共有		
11			
12			
13			
14			
15			
16			
授業の方法	臨地実習（県内の市町村役場）　1日あたり9時間　10日間　合計90時間 実習期間：平成29年10月12日（木）・19日（木）・26日（木）、11月1日（水）～11月10日（金）		
テキスト	実習に関する要項作成、授業で使用した教科書および教材		
参考文献	随時紹介		
評価方法	実習目標の到達度について、実習先の指導者の評価を参考に実習記録及び実践活動（70%）、課題及びプレゼン内容（20%）、実習態度（10%）により評価する		
授業時間外に必要な学習	事前の学内実習で提示された課題を作成すること。前期の公衆衛生看護学全般を復習しておくこと。日々、実習内容とそこから得た学びを記録し、知識と経験を統合すること。		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	実習時間終了後（原則として要予約）、電子メール等でも質問に応じる		
履修上の注意事項	「個人・家族・集団・組織の支援実習」は前期に開講する「公衆衛生看護学」、「疫学」、「保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ」の単位をすべて修得していることが履修条件である。		

授業科目	公衆衛生看護活動展開論実習	授業の方法・単位	実習・２単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　後期		
担当教員	梶本　市子、大西　昭子、野村　美紀・森本　美佐子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保健師には、基礎データから得られる情報等で地域実態把握をしたり、日々の保健活動の中での気づきを活かしたりしながら地域診断を行い、担当する地域の特性を把握し、健康課題を明確化し活動を展開していく能力が求められる。そのため、担当地域の健康課題を明らかにし、その解決に向けて、関係機関との連携や組織化に向けた支援を基盤にしてシステマティックに活動を展開している事例の分析・評価、介入を行い、地域ケアコーディネーションの総合調整機能に関わる保健師の役割を理解し、地域の現場で知識を活用し実践することができる。 ＜到達目標＞ １．地域診断を基に必要な地域ケアシステムを構築する必要性と保健師の役割が説明できる ２．看護の目的にそって地域保健医療福祉システムの中での看護職者の果たす役割について説明することができる ３．母子保健・精神保健・成人保健などの各種事業に参加し、事業の目的や対象とするもの、保健師の役割を学び実践力を養うことができる ４．個々の保健事業を地域全体のヘルスプロモーションの視点に立って説明できる ５．カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる		

授業の計画		
授業の計画	1	福祉保健所実習：業務内容・保健所の業務、健康危機管理、広域的・専門的業務の実際を学ぶ
	2	福祉保健所実習：保健所保健師の役割について説明、新任期保健師とのグループワーク
	3	学内実習：福祉保健所の業務と保健所保健師の役割についてのプレゼンテーション
	4	産業保健実習：事業所での労働者の健康管理、産業保健の 3 管理の視点で事業所の見学と分析
	5	学内実習：実習先市町村の概況や地域特性のまとめ、実習の中間評価と今後の計画・目標設定
	6	市町村実習：保健福祉事業（母子・成人・高齢者・障害等）で個人・集団への看護ケアの実践
	7	市町村実習：保健福祉事業（母子・成人・高齢者・障害等）で個人・集団への看護ケアの実践
	8	市町村実習：地域の概況調査・データ分析・地区踏査や住民インタビューによる健康課題の抽出
	9	市町村実習：地域診断結果のまとめと健康課題の明確化/健康教育の企画立案・指導案の作成
	10	市町村実習：課題に基づき集団を対象とした健康教育の実践と評価
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	臨地実習（県内の市町村及び福祉保健所、事業所）1 日あたり 9 時間　10 日間　合計 90 時間 実習期間：平成 29 年 11 月 13 日（月）～11 月 27 日（月）
テキスト	実習に関する要項作成、授業で使用した教科書および教材
参考文献	随時紹介
評価方法	実習目標の到達度について、実習先の指導者の評価を参考に実習記録及び実践活動（70%）、課題及びプレゼン内容（20%）、実習態度（10%）により評価する
授業時間外に必要な学習	事前の学内実習で提示された課題を作成すること。前期の公衆衛生看護学全般を復習しておくこと。日々、実習内容とそこから得た学びを記録し、知識と経験を統合すること。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	実習時間終了後（原則として要予約）、電子メール等でも質問に応じる
履修上の注意事項	「公衆衛生看護活動展開論実習」は前期に開講する「公衆衛生看護学」、「疫学」、「保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ」の単位をすべて修得していることが履修条件である。

授業科目	公衆衛生看護管理論実習	授業の方法・単位	実習・１単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　後期		
担当教員	梶本　市子、大西　昭子、野村　美紀・森本　美佐子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 地域住民や関係機関と協働して、地域全体の健康レベルの向上及び地域ケアの質を保障するための保健師の役割を実際の活動から学びとることができる。また保健師は保健医療福祉行政の中に位置づけられる専門職者として、地域の健康問題や特性など実情に応じた事業の企画立案や進行管理、予算及び情報に関する各種管理能力などが求められることを理解し、さらに人材育成や災害時などの健康危機管理における保健師の役割や位置づけ、求められる資質を学び、実際の場面での実践方法を検討することができる。 ＜到達目標＞ １．地域住民の健康の保持増進のための一次予防や二次予防、三次予防をねらいとした地域の保健医療福祉システムの中で保健師に求められる役割や管理能力を理解することができる ２．関係機関との協働や連携の必要性を学び、具体的な連携の取り方を地域の個別ケースへの支援や組織支援を通じて理解することができる ３．市町村で運営されている各種保健事業の予算や業務管理などの実際を企画の段階から理解することができる ４．市町村における人材育成や保健師の管理的能力の獲得の方法について実際の現場の中で理解できる ５．行政に位置づけられる専門職者として、守秘義務や個人情報の保護の徹底の必要性を理解し、対象を尊重する気持ちをもって活動に臨む姿勢を習得することができる ６．カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、保健師活動に対する自己洞察を深め、専門職者としての意識と責任を持つことができる		
授業の計画	1	市町村実習：保健福祉計画・健康増進計画などの立案方法、進捗状況管理について会議等に参加	
	2	市町村実習：事業の企画立案と実施・評価のプロセス、予算管理、地域や事例管理の方法を学ぶ	
	3	市町村実習：市町村における人材育成の取り組みや会議に参加	
	4	市町村実習：臨地実習における最終カンファレンス/実習のまとめ・振り返り	
	5	学内実習：保健師活動のコアを抽出、学びの共有および自己洞察	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
授業の方法	臨地実習（県内の市町村役場）　1 日あたり 9 時間　5 日間　合計 45 時間 実習期間：平成 29 年 11 月 28 日（火）～12 月 4 日（月）		
テキスト	実習に関する要項作成、授業で使用した教科書および教材		
参考文献	随時紹介		
評価方法	実習目標の到達度について、実習先の指導者の評価を参考に実習記録及び実践活動（70%）、課題及びプレゼン内容（20%）、実習態度（10%）により評価する		
授業時間外に必要な学習	事前の学内実習で提示された課題を作成すること。前期の公衆衛生看護学全般を復習しておくこと。日々、実習内容とそこから得た学びを記録し、知識と経験を統合すること。		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	実習時間終了後（原則として要予約）、電子メール等でも質問に応じる		
履修上の注意事項	「公衆衛生看護管理論実習」は前期に開講する「公衆衛生看護学」、「疫学」、「保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ」の単位をすべて修得していることが履修条件である。		

授業科目	外国語	授業の方法・単位	演習 ・ 1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	片山　美穂		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 看護学にまつわる英語力を土台にしながら、公衆衛生学に関する英語の語彙力を身に付ける。 ＜到達目標＞ 1．看護学に関する基礎的語彙を理解することができる。 2．上記を基に、公衆衛生学に関する特に重要な語彙を理解することができる。		

授業の計画		
	1	オリエンテーション、スピーキング（Lesson 1 あいさつ、自己紹介）
	2	リーディング（文献を読むときのポイント）、スピーキング（Lesson 2 看護技術）
	3	リーディング（公衆衛生学）、スピーキング（(Lesson 3 症状）
	4	リーディング（公衆衛生学）、スピーキング（Lesson 4 受付にて、会計）
	5	リーディング（公衆衛生学）、スピーキング（Lesson 5 風邪、胃の痛み）
	6	リーティング（公衆衛生学）、スピーキング（Lesson 6 内科）
	7	復習 1、スピーキング（Lesson 7 外科）
	8	語彙のまとめ　1 作成
	9	語彙のまとめ　2 グループワーク、スピーキング（Lesson 8 小児科、内科）
	10	リーディング（公衆衛生学）、スピーキング（Lesson 9 眼科、耳鼻咽喉科）
	11	リーディング（公衆衛生学）、スピーキング（Lesson 10 皮膚科、泌尿器科）
	12	リーディング（公衆衛生学）、スピーキング（Lesson 11 産科、放射線科）
	13	復習 2、スピーキング（Lesson12 歯科）
	14	ライティング（履修内容に基づき、各学生の設定したテーマ）
	15	履修語彙等の総復習
	16	試　験

授業の方法	演習
テキスト	「看護英会話入門」 第 3 版、植木武、ドレール・トウン・著 （医学書院）、 「スタンダード医学英和辞典」 佐藤登志郎・監修 （南山堂）
参考文献	随時紹介する
評価方法	平常時提出物（40%）、小テスト（20%）、試験（40%）で評価する
授業時間外に必要な学習	授業で扱う単元に関して、分からない文法や語彙について調べること。 授業で扱う単元に関して、関連する発展的な文法や語彙をノートなどにまとめること。 予習・復習合計 1 時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日 10:30-12:00
履修上の注意事項	「スタンダード医学英和辞典」の購入の詳細については、1 回目の授業で連絡をします。 なお、英和辞書（手持ちのもので可）を持参するようにしてください。

授業科目	情報科学Ⅲ	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	寺尾　康		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　保健師あるいは養護教諭の業務に必要となるデータ処理、エクセルを用いた統計処理・検定ができるようになる。ワードの機能を用いて、エクセルのデータを連動させて案内文書が作成できるようになる。プレゼンテーションの原則をふまえ、パワーポイントによるプレゼンテーションができるようになる。 ＜到　達目標＞ 　サンプルデータをもとにエクセルを用いた統計処理・検定ができる。ワードの機能を用いて、エクセルのデータを連動させて案内文書が作成できる。プレゼンテーションの原則をふまえ、パワーポイントによるプレゼンテーションができる		
授業の計画 1	ガイダンス、エクセルを用いた統計処理		
2	ガイダンス、エクセルを用いた統計処理		
3	エクセルを用いた統計処理(ヒストグラムの作成、基本統計量の算出)		
4	エクセルを用いた統計処理(ヒストグラムの作成、基本統計量の算出)		
5	エクセル Excel を用いた統計処理(クロス集計をもとにしたχ2 乗検定)		
6	エクセル Excel を用いた統計処理(クロス集計をもとにしたχ2 乗検定)		
7	エクセルを用いた統計処理(対応のある 2 群の平均値の差の検定、等分散あるいは分散が等しくない場合の t 検定)		
8	エクセルを用いた統計処理(対応のある 2 群の平均値の差の検定、等分散あるいは分散が等しくない場合の t 検定)		
9	ワード、エクセルの機能を連動させた案内文書の作成		
10	ワード、エクセルの機能を連動させた案内文書の作成		
11	プレゼンテーションの原則とパワーポイントによるプレゼンテーションの作成		
12	プレゼンテーションの原則とパワーポイントによるプレゼンテーションの作成		
13	パワーポイントによるプレゼンテーションの作成と評価		
14	パワーポイントによるプレゼンテーションの作成と評価		
15	まとめ		
16			
授業の方法	演習		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	「医療・看護のためのやさしい統計学(基礎編)」山田覚著(東京図書株式会社)		
評価方法	授業項目に対する関心・意欲・態度、授業内課題（60%)、レポート（40%）		
授業時間外に必要な学習	教員が指定する教材を用いて予習・復習をすること（予習・復習合計 1 時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日　午後 2 時 30 分～4 時		
履修上の注意事項			

授業科目	修了研究	授業の方法・単位	演習・6単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　通年		
担当教員	矢野　智恵、今村 優子、山本 和代、髙藤 裕子、吉田　亜紀子、和泉 明子、中岡 亜紀、大西 昭子 政平 憲子、山西　亜紀子		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 専門科目の学習成果を受けて設定したテーマを基に看護研究に取り組み、目的に向かう粘り強さ、論理的思考能力、豊かな表現力を身につける。また、倫理的感受性を高め、看護専門職としての責務について考察することにより、看護専門職者としての自己教育力を高める。 ＜到達目標＞ 1．科学的な研究方法について、自分の研究テーマと関連させて説明することができる 2．研究にあたっての倫理的配慮について説明することができる 3．自ら設定したテーマについて文献を集めて、記述されている内容を要約することができる 4．文献検討の結果を基に、テーマについての「問い」を立てることができる 5．主体的・計画的に研究に取り組むことができる 6．根拠に基づき、テーマに沿って一貫性のある記述ができる 7．研究の基本的なプロセスを説明することができる 8．自分の研究が看護の発展にどのように寄与するのか、考えを述べることができる 9．研究について効果的にプレゼンテーションができる 10. 研究を通して得られた自己の成果と課題を明確にし、今後の展望について自分の考えを述べることができる		
授業の計画	1～4	文献検索および検討、研究テーマの検討	
	5～10	研究計画書の作成、研究計画書発表と提出、大学改革支援・学位授与機構へ履修計画書提出	
	11～12	研究倫理審査委員会の審査のための書類作成、計画書の修正	
	13～16	研究対象者選定、研究協力依頼、データ収集	
	17～22	データ収集及びデータ分析	
	23～32	データ分析と研究論文の作成	
	33～36	論文校正・研究の要旨の作成、修了研究論文　地域看護学専攻長へ提出（中間）	
	37～40	中間査読審査、論文の加筆修正、査読結果への回答を作成、論文・要旨・成果の提出	
	41～42	論文抄録・発表原稿・パワーポイント資料の作成、大学改革支援・学位授与機構へ成果の要旨提出	
	43～45	修了研究発表会でのプレゼンテーション、研究対象者に対して研究結果の報告	
授業の方法	研究領域別に教員が学生1～2名を担当し、研究指導を行う。 1日あたり4時間　45日間　合計180時間		
テキスト	看護における研究　南裕子編集　日本看護協会出版会		
参考文献	各自の研究に関連する文献を積極的に検索し集める。		
評価方法	上記の到達目標について、口頭および記述内容からの確認により評価する		
授業時間外に必要な学習	予習：研究に関する文献検討を自主的に進め、自分の意見をもとに疑問点や確認したいことを明確にしておく。 復習：研究に関する考察を自主的に進め、研究結果を効果的にプレゼンテーションする方法について自分の意見をもっておく。　（予習・復習合計1時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	開講中の空き時間は随時。計画をもって相談されたい方は、予約を入れていただけると円滑に対応することができます。		
履修上の注意事項	研究のプロセスに主体的に取り組むこと		

授業科目	衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	授業の方法・単位	講義 ・ 2 単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	田口　徹也(非常勤)		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞公衆衛生とは、疾病の予防・健康の保持増進を達成するために、地域・職域において保健・医療・福祉活動を総合的に展開する必要があり、対象を集団として集団の動向から健康を捉え、得られた結果・成果を個人に活用する総合学問分野である。幅広い基礎的知識から予防医学の基礎を学習することによって、これらを実際の活動展開の中で活用できるようになる。 ＜到達目標＞ 1.　日本の近・現代史を概観しながら公衆衛生改善の歩みを理解することができる 2.　公衆衛生に関する現在の問題点と保健医療従事者の課題について考えることができる 3.　現在の公衆衛生システムと政策について理解することができる 4.　諸外国の公衆衛生システムと政策について理解することができる 5.　生活習慣病の危険因子について説明できる 6.　生活環境の健康障害について説明できる 7.　感染症の疫学とその予防について説明できる 8.　労働者の健康管理について説明できる		

授業の計画		
	1	日本の公衆衛生改善の歩み(近・現代史を概観する)
	2	公衆衛生に関する現在の問題点と保健医療従事者の課題
	3	現在の公衆衛生システムと政策①
	4	現在の公衆衛生システムと政策②
	5	諸外国の公衆衛生政策①
	6	諸外国の公衆衛生政策②
	7	生活習慣病の危険因子①
	8	生活習慣病の危険因子②
	9	生活環境の健康障害①
	10	生活環境の健康障害②
	11	感染症の疫学とその予防①
	12	感染症の疫学とその予防②
	13	労働者の健康管理①
	14	労働者の健康管理②
	15	労働者の健康管理③
	16	試　験

授業の方法	講義
テキスト	シラバスに沿ったテキストを作成する
参考文献	「国民衛生の動向」(厚生統計協会)、プリント、スライドその他授業中に紹介する
評価方法	試験 80%　授業中の発表 20%
授業時間外に必要な学習	講義内容から、各人に興味ある事例を割当て各自に発表してらもうので、準備をするように。 予習・復習合計 4 時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	質問等がある場合には専攻科の教員を通して確認をすること
履修上の注意事項	

授業科目	学校保健Ⅱ	授業の方法・単位	講義 ・ 1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	山本　和代		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 学校保健の仕組みと役割を理解し、養護教諭一種として積極的に学校保健を推進していくための基礎的知識と実践力を養う。 ＜到達目標＞ 1．学校保健の目的・意義を理解し、養護活動を行う上で必要な知識・技術を習得する。 2．学校保健は、公衆衛生的機能と教育保健的機能を統合的に果たす役割があることを理解する。 3．教育における養護活動の位置づけと養護活動の過程について説明することができる。 4．健康（心身）・発達・行動上の課題を有する子ども・家族への支援のあり方について説明することができる。 5．学校保健の運営と保健室経営のあり方を考え、理解する。		

授業の計画		
	1	学校保健の意義
	2	現代社会における学校保健の役割　－公衆衛生としての学校保健、教育としての学校保健－
	3	学校保健統計からみた児童生徒の発育・発達と健康課題
	4	健康・発達・行動上の課題を有するこども・家族への支援①　　課題
	5	健康・発達・行動上の課題を有するこども・家族への支援②　　課題のフィードバック
	6	特別な支援を要するこども・家族の理解と支援
	7	養護活動の過程
	8	学校保健と地域保健との連携
	9	試験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義・視聴覚教材、テーマに基づいて討論・発表。この授業は講義型授業であるが、双方向授業として学生が自分の意見を積極的に発言できる場面を多く設定している
テキスト	新学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会編著（第一法規）
参考文献	「国民衛生の動向」財団法人　厚生統計協会
評価方法	毎回の授業で行うリフレクションへの対応・毎回のコメントシート（２０％）、レポート（２０％）、試験（６０％）等により評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：事前に配布する文献を購読し、次回講義の概要を把握し疑問点を明確にしておくこと。（2時間） 復習：授業内容について、自分の理解度を確認し知識を整理しておくこと。　（2時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日１３：００～１５：３０。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	毎回の授業の終わりにリフレクションを行い、次回の授業の初めにフィードバックする。このリフレクションへの対応も最終評価に反映させる。

授業科目	養護概説Ⅱ	授業の方法・単位	講義 ・ 1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	山本　和代		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞養護教諭独自の職務である養護活動について学び、学校という集団での健康実態や健康問題を把握し、問題解決方法を習得する。 ＜到達目標＞ 1．養護教諭として活動を行う知識・技術について養護概説Ⅰで修得した授業内容に保健調査・健康観察・健康教育とヘルスプロモーション・保健教育を加えることによって、レベルの高い養護教諭の機能・役割を理解する。 2．養護教諭（1 種）として、保健室経営の基本、学校保健経営への参画のあり方や教育課程と養護教諭との関わりの重要性について理解する。		

授業の計画		
	1	養護の本質と概念
	2	養護教諭の職務・必要な資質能力、教育に果たす役割
	3	健康実態の把握と健康課題に応じた養護活動①
	4	健康実態の把握と健康課題に応じた養護活動②　　課題
	5	ヘルスプロモーションと学校における健康教育①　　課題のフィードバック
	6	ヘルスプロモーションと学校における健康教育②
	7	保健室経営、学校保健経営への参画①
	8	保健室経営、学校保健経営への参画②
	9	試験
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義・視聴覚教材、テーマに基づいて討論・発表。この授業は講義型授業であるが、双方向授業として学生が自分の意見を積極的に発言できる場面を多く設定している
テキスト	適宜資料を配布する
参考文献	「学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会編著　第一法規
評価方法	毎回の授業で行うリフレクションへの対応・毎回のコメントシート（２０%）、レポート（２０%）、試験（６０%）等により評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：事前に配布する文献を購読し、次回講義の概要を把握し疑問点を明確にしておくこと。（2時間） 復習：授業内容について、自分の理解度を確認し知識を整理しておくこと。　（2時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日１３：００～１５：３０。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	毎回の授業の終わりにリフレクションを行い、次回の授業の初めにフィードバックする。このリフレクションへの対応も最終評価に反映させる。

授業科目	学校教育制度	授業の方法・単位	講義 ・ 2単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	中村　直人（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞学生が我が国の教育制度の変遷制度について深く学習するとともに、諸外国の教育制度についての理解を深め、また、義務教育制度に関連する課題等についても理解を深めること。 ＜到達目標＞ 1. 教職を目指す学生が、基本的な学校制度の概念について理解できること。 2. 学生が我が国の学校制度の位置づけと役割を、諸外国との比較において理解すること。 3. 学生が学校制度を取り巻く社会的環境や地誌的諸条件などを理解するとともに、広く教育を社会制度としてとらえる視点を持てること。		
授業の計画 1	明治時代から昭和22年までの教育制度（法令等）		
2	明治時代から昭和23年までの教育制度（教育年限や学校種別）		
3	明治時代から昭和24年までの教育制度（教育年限や学校種別）		
4	戦後の教育改革について（総括的）		
5	教育基本法及び学校教育法の制定について		
6	教育改革に伴う高知県内の小中学校及び高等学校の変遷		
7	教育委員会制度の変遷		
8	日本経済の高度成長と教育の果たした役割について		
9	外国の義務教育制度について（米国）		
10	外国の義務教育制度について（イギリス）		
11	外国の義務教育制度について（中国・韓国）		
12	教育基本法の改正とその背景について		
13	学校評価制度と課題について		
14	全国学力調査の結果について		
15	教育の課題と各審議会の提言について		
16	試　験		
授業の方法	講義		
テキスト	シラバスに応じた教材作成によりテキストと代替		
参考文献	「学制120年史」（文部省）、「明治以降教育制度発達史」（教育史編纂会）、中央教育審議会答申、臨時教育審議会答申(S61, 62)、高知県教育史(高知県教育委員会)、経済同友会提言「若者が自立できる日本へ」諸外国の学校教育(欧米著)(文部省)		
評価方法	試験（100%）		
授業時間外に必要な学習	予習と復習については、授業において読了しておくべき資料や文書を指示する。 予習・復習合計4時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業後に質問を受け付ける		
履修上の注意事項			

授業科目	教育課程の意義と編成	授業の方法・単位	講義 ・ 1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	中村　直人（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞教職を目指す学生が、我が国の教育課程の変遷とその制度について学習するとともに、教育課程内容についての理解を深めること。また、諸外国の教育課程改革を理解しつつ、日本の教育課程改革の特徴を理解すること。 ＜到達目標＞ 1．学生が法規（学校教育法、同施行規則）と学習指導要領について理解すること。 2．学生が小学校及び中学校の教育課程の編成方法について理解すること。 3．学生が養護教諭の職務と教育課程との関連について理解すること。		
授業の計画 1	法規（学校教育法、同施行規則）と学習指導要領との関連について		
授業の計画 2	教育課程編成と学校組織について		
授業の計画 3	小学校・中学校における教育課程編成の手順について		
授業の計画 4	小学校における教育課程と時間割編成		
授業の計画 5	中学校における教育課程と時間割編成		
授業の計画 6	小学校における教育課程と年間教育計画		
授業の計画 7	中学校における教育課程と年間教育計画		
授業の計画 8	養護教諭の職務と教育課程の関連について		
授業の計画 9	試　験		
授業の計画			
授業の計画			
授業の計画			
授業の計画			
授業の計画			
授業の計画			
授業の計画			
授業の方法	講義		
テキスト	シラバスに沿った教材の作成		
参考文献	「小・中学校学習指導要領」（文部科学省）、文部科学省法令要覧等		
評価方法	試験(100%)		
授業時間外に必要な学習	予習と復習については、授業において読了しておくべき資料や文書を指示する。 予習・復習合計4時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業後に質問を受け付ける		
履修上の注意事項			

授業科目	教育方法論	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	小島　一久、寺尾　　康		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　各種教育媒体と教材提示方法の長所と短所を理解することができるようになる。教材の作成を理解し、適切な教材を作成する能力を養う。教育媒体を使用しての実際の授業展開ができる能力・技術を養う。教育方法の多様化に対応する施設、設備についての理解を深める。 ＜到達目標＞ 　各種教育媒体と教材提示方法の長所と短所を理解することができる。教材の作成を理解し、適切な教材を作成する能力を養うことができる。教育媒体を使用しての実際の授業展開ができる能力・技術を養うことができる。教育方法の多様化に対応する施設、設備についての理解を深めることができる。		

授業の計画		
	1	オリエンテーション(講義のキーワード、方法、評価方法等)　（小島）
	2	教育方法の歴史的変遷　（小島）
	3	学校教育計画について　（小島）
	4	電子教材の現状　（寺尾）
	5	電子教材の機能　（寺尾）
	6	授業計画と学習指導案の作成　（小島）
	7	情報関連技術の動向とその活用方法　（小島）
	8	教育方法の多様化と学校施設、設備　（小島）
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	講義
テキスト	適宜、プリントを配布する
参考文献	特になし
評価方法	授業項目に対する関心・意欲・態度、授業内課題（60%）、レポート（40%）
授業時間外に必要な学習	教員が指定する教材を用いて予習・復習をすること（予習・復習合計４時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	各教員が曜日、時間を連絡する。
履修上の注意事項	

授業科目	生徒・進路指導論	授業の方法・単位	講義 ・ 2単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	鈴木　高志（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞いじめや不登校（中退）などといった中学校・高等学校における生徒指導の現状、および、それを読み解く理論を理解する。合わせて、ディスカッションや傾聴の実習などを通じて、実践的な対処についてもトレーニングを積み、自信をもって指導にあたることを可能にするような素地を獲得することを目的とする。 ＜到達目標＞ 1．小中高等学校における生徒指導の理論と現状について理解を深める 2．生徒指導を通じて「生きる力」の醸成方法について理解を深める 3．生徒指導と進路指導及びキャリア形成についての理解を深める		
授業の計画 1	オリエンテーション（指導の概要、レポート、評価等について）		
2	生徒指導とは		
3	生徒指導の教育心理学的根拠（1）　―主体的学びとは何か		
4	生徒指導の教育心理学的根拠（2）　―自己実現とは		
5	生徒指導の実際（1）　―生徒指導における教員の役割		
6	生徒指導の実際（2）　―生徒指導と問題行動		
7	生徒指導の技法と理論（1）　―来談者中心的カウンセリングとは		
8	生徒指導の技法と理論（2）　―来談者中心的カウンセリング実習		
9	進化する生徒指導　－ＱＵ（学級満足度）と生徒指導		
10	児童虐待の発見と防止		
11	生徒指導のまとめ		
12	進路指導とは		
13	進路指導の理論　―適所適材か、夢の追求か		
14	進路指導の実際　―若年労働力の支援とは		
15	進路指導のまとめ		
16	試験		
授業の方法	講義		
テキスト	シラバスに沿った教材プリントを作成し配布する。		
参考文献	生徒指導提要(文部科学省)、今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（文部科学省・中央教育審議会答申）		
評価方法	指導に対する取り組み（10%）、レポート（30%）、試験（60%）等により評価する		
授業時間外に必要な学習	授業のふり返りと小レポートの準備　予習・復習合計4時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業後に質問を受け付ける		
履修上の注意事項			

授業科目	養護実習Ⅱ	授業の方法・単位	実習 ・ 1単位
開講学科等	専攻科地域看護学専攻　前期		
担当教員	山本　和代		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞大学で習得した知識・技術を、学校という教育活動の場で体験し、学校教育全般についての理解を深め、学校保健活動の実際について学ぶとともに、養護教諭の職務について理解し、実践力を養う。また、教育者としての自覚を高めるとともに、教職に必要な技術・能力と精神を培うことを目的とする。 ＜到達目標＞ １．学校の特性、組織運営について述べることができる。 ２．教育計画のなかでの学校保健活動の位置づけについて理解し、学校保健計画・学校安全計画について 説明できる。 ３．養護教諭の役割と具体的活動を理解し、養護教諭の指導のもと保健室来訪者の対応ができる。 ４．児童生徒の生活を理解するとともに、発達発育段階に応じた保健教育が実施できる。 ５．包括的視点から、家庭・地域・関連機関との連携について理解することができる。		

授業の計画		
授業の計画	1	実習施設の理解 学校教育計画・学校保健計画・学校安全計画の理解
	2	保健室経営／保健室経営計画の理解
	3	救急処置の観察・参加
	4	保健学習の計画・指導案作成・指導・評価
	5	協働・連携並びに組織活動の理解 学校における協働・連携／家庭・地域・関係機関との連携
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	

授業の方法	学外指導（県内の公立・私立の小学校）　　1日あたり9時間　5日間　計45時間 実習期間：平成29年9月4日（月）～9月8日（金）
テキスト	養護実習要項を独自に作成し使用
参考文献	「小中高等学校学習指導要領」・「学校保健実務必携」学校保健実務研究会編著　第一法規
評価方法	実習校における評価、実習日誌、自己学習資料について総合的に評価する
授業時間外に必要な学習	1）実習要項をよく読み、実習における学習の進め方について計画しておく。 2）実習オリエンテーションの際に提示する学習課題について、実習開始前までに学習しておく。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日１３：００～１５：３０。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	・養護実習要項に記載している「養護実習の心得」に関する事項を厳守する。